

## 平成26年度第5回経営協議会 議事要旨

**日時** 平成27年1月26日(月) 14時00分～15時03分  
**場所** 事務棟第二会議室  
**出席者** 和田学長, 大矢理事, 近藤副学長,  
齋田委員, 齊藤委員, 榊原委員, 中松委員, 舟本委員  
**欠席者** 鈴木理事, 片桐委員  
**陪席者** 海老名理事, 石橋監事, 末永監事

議事に先立ち, 前回(11月25日)開催の平成26年度第4回経営協議会の議事要旨の確認が行われた。

### 審 議 事 項

#### 1. 国立大学法人小樽商科大学中期計画の変更について

和田学長から, 審議資料1に基づき, 国立大学法人小樽商科大学中期計画の変更について諮られ, 審議の結果, 原案どおり承認された。

承認後, 和田学長から, 本件について承認されたため, 次回開催の役員会に附議することとする旨発言があった。

#### 2. 教員就業規則の改正及び年俸制適用職員給与規程等の制定について

和田学長から, 審議資料2に基づき, 教員就業規則の改正及び年俸制適用職員給与規程等の制定について諮られ, 審議の結果, 原案どおり承認された。

承認後, 和田学長から, 本件について承認されたため, 次回開催の役員会に附議することとする旨発言があった。

なお, 本件について意見交換が行われた。

#### 【意見交換の主な内容】

○今後, 年俸制へ移行を希望する教員の募集や新規採用により, 平成27年2月, 平成27年4月, 平成28年4月をそれぞれ開始月として段階的に年俸制適用職員を増やしていき, 文部科学省から示されている目標数値である承継職員の10%(12名)を達成する予定である。

○年俸制適用職員には, 事前に1年間の業務目標及び業務割合(エフォート)を提出してもらい, 期間の終了後に実績を提出させ, 学長が評価を行う予定である。客観的で公平な評価が行うことができるよう, 引き続き評価基準等については慎重に検討していくこととしている。

### 3. 経営協議会学外委員声明等について

和田学長から審議資料3に基づき、北海道7国立大学と本学の運営費交付金の削減の現状について説明があった後、国立大学の基盤的経費である運営費交付金の確保に関して、国立大学の経営協議会の学外委員が声明を発表することについて、国立大学協会会長より検討の依頼があった旨、説明があった。

本議題の趣旨は、この声明に関して提出の可否や声明の内容について経営協議会の学外委員の了解をいただきたいというものであるため、「審議事項」ではなく「意見交換」として取り扱うものとした旨提案があり、これが了承された。

#### 【意見交換の主な内容】

○声明を出すことでどのような効果が期待されるかは定かではないが、本学のためになるのであれば声明を発表すべきであろう。

○内容について、題名が「地方国立大学」で始まっている。平成28年度運営費交付金の見直しの中で、このままではそもそも国立大学の存続が危ぶまれるものであるのに、「地方創生」など流行の文言を使用することをしなければ、運営費交付金の確保ができないのか。これまでの歴史の中で国立大学が果たしてきた教育・研究が成り立たなくなるという根本的な部分を表明した方がよいのではないか。

○本学のミッションにおいて「地域貢献」は重要な視点であるのでおさえていく必要がある。さらにグローバルに活躍する人材を輩出するための「教育・研究」についても存在意義を示すべきである。

○国立大学の経営が立ち行かなくなることは、将来の国家を担う人材育成ができなくなることであり、大変大きな損失である。小樽市や北海道においては、本学の教育・研究や学生の地域貢献の取組は大きな役割を果たしていると考え、このような声明を出すことは必要であると考ええる。

○国立大学協会会長より各国立大学宛てに検討依頼があったことが周知の事実なのであれば、声明を出しても、学外委員自らの発案とは捉えられにくいのではないか。

○声明の宛先は、広く社会一般を対象としてホームページやメディアへ露出するほか、地元の国会議員や地元自治体の首長を考えている。どのようなアピールがより効果が高いか、引き続き検討したい。

○広く社会一般に向けて発信するのであれば、運営費交付金が削減されて疲弊している姿ではなく、本学がミッションの達成に向けて前向きに取り組んでいる姿を見せるべきである。

種々意見交換の結果、学外委員による声明を発表することとし、内容については国立大学の基本的な存在意義をベースに、本学の取組を前向きに記載する修正を行うとともに、声明を誰にどのように発表するかについても学内で再検討のうえ、改めて委員に確認願うこととする旨、了承された。

## 報 告 事 項

### 1. グローカルマネジメント副専攻プログラムについて

和田学長から、報告資料1に基づき、グローバルマネジメント副専攻プログラムについて報告があった。併せて、1月25日北海道新聞全道版に掲載された新聞広告及び1月26日に実施された「グローバルマネジメント副専攻プログラム記者会見」についても報告があった。

### 2. 最近のトピックスについて

和田学長から、報告資料2に基づき、本学の最近の動向について報告があった。

### 3. その他

和田学長から委員へ大学運営に関する意見や要望等の確認が行われ、意見交換が行われた。

#### 【意見交換の主な内容】

○委員から、本会議に学内委員が欠席していることは憂慮すべきことであるとの意見があり、学長から真摯に受け止める旨の発言があった。

○委員から、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーを整備する必要がある旨の発言があり、学長から、本学の教育の特徴であるT型人材の育成を軸に、本学学生の質を保證するポリシーの作成を早急に進めている旨説明があった。

意見交換後、和田学長から、次回の経営協議会については、3月16日（月）14時から開催する予定である旨、発言があった。なお、緊急の案件が生じた場合には、急遽、会議を招集させていただくことも想定されるので、その場合には、会議の開催日程を調整させていただきたい旨、併せて発言があった。

以 上